

世界コマ大戦 ～ベトナム青年社長編～ ～ベトナムから乗り込んだ青年社長の挑戦

2015.03.25

いいね! 128

ツイート 0

G+ 0

2015年2月15日、全国の中小製造業が、技術者としてのプライドをかけてけんかコマで勝負する「コマ大戦」。第3回となる今回は、世界6カ国での予選を勝ち抜いた海外勢も参戦し、「世界コマ大戦」として熱い戦いが繰り広げられました。

応援団を引き連れるチームもいる中で、ベトナムから1人で乗り込んだグエン ホアンハオさん。カイタックという会社を経営する30歳の青年社長です。ベトナムホーチミン予選を1位通過して、世界の舞台へ挑戦した彼の目には、大会はどのように映ったのでしょうか。ホアンさんに密着し、その戦いを追いました。

世界コマ大戦 ～準優勝チーム編～
日本の製造業を直撃した“インドネシア・タイフーン”の衝撃

1人で挑んだベトナム青年社長の奮闘記

世界コマ大戦の参加受付が始まると、会場は対戦前の興奮に包まれました。高い技術と細やかな工夫によって生み出されたコマを手に、集まる参加者たち。闘志をあらわにしたチームも多い中、通訳の女性を1人連れ、穏やかにほほ笑みを浮かべながら受付を済ませるホアンさん。カイタック社にいる6人の社員は、本国に残って応援しているとのことでした。

いよいよ初戦。ホアンさんは、真っ赤なベトナム国旗を羽織り、静かにステージに向かいます。迎えた初戦の相手は、中日本ブロック準優勝チーム、岐阜県古川電機製作所岐阜工場です。低重心型で、形状のよく似たコマ同士の対戦となりました。2戦とも、コマ同士が接触するかしないかのギリギリの距離で回り続ける持久戦となり、ホアンさんは惜しくも敗退してしまいます（ちなみに、この古川電機製作所岐阜工場のコマは、世界コマ大戦の裏で行われていた単独回転時間を競う「俺のコマがこんなに弱いわけがない。裏でやっちゃうよ。裏世界コマ大戦長回し部門」で第2位。9分間も回り続ける成績を残しています）。



古川電機製作所岐阜工場との対戦で、コマを投げるホアンさん



敗戦が決まった後、この大会に参加できた喜びと感謝を語ります

世界大会は初戦敗退という結果に終わり、ホアンさんは敗者復活戦に望みをかけます。

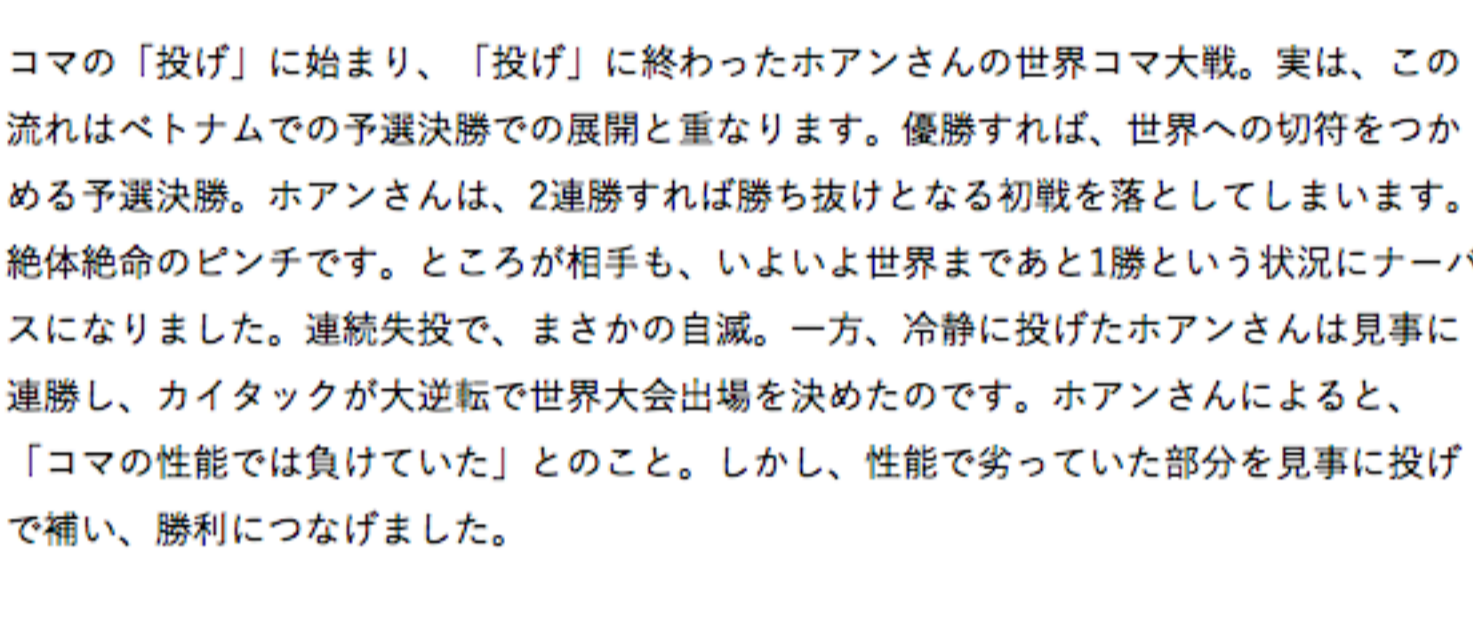
「1回戦で負けたのは残念ですが、相手のコマは強かったですね。ただ、投げがもう少しうまくいってれば、展開は変わっていたかもしれません。コマ大戦ではコマそのものも重要ですが、投げの技術も40%程度の比重があります。敗者復活戦では、しっかりと投げて、次こそ勝ちたいです」

ホアンさんは冷静に敗因を分析し、すぐに気持ちを切り替えて、敗者復活戦を見据えます。

そして迎えた敗者復活戦。2連勝すれば勝ち上がることのできる本戦とは異なり、一発で勝負が決まります。より緊張が高まる対戦ですが、それでもホアンさんは冷静でした。

初戦での反省を見事に生かし、敗者復活戦の初戦は粘り勝ち。続く、2回戦もしっかりと投げ、勝利をつかみました。あと2勝で本戦復活。それが力みを生んだのかもしれませんが。

なんと、最も重視していた投げを失敗。投げた直後にコマが土俵外に飛び出し、自滅する形で、敗者復活戦準決勝で敗れてしまいました。それでも、単身世界に乗り込んだ青年社長は、世界の舞台で敗者復活戦ベスト4進出という足跡を残しました。

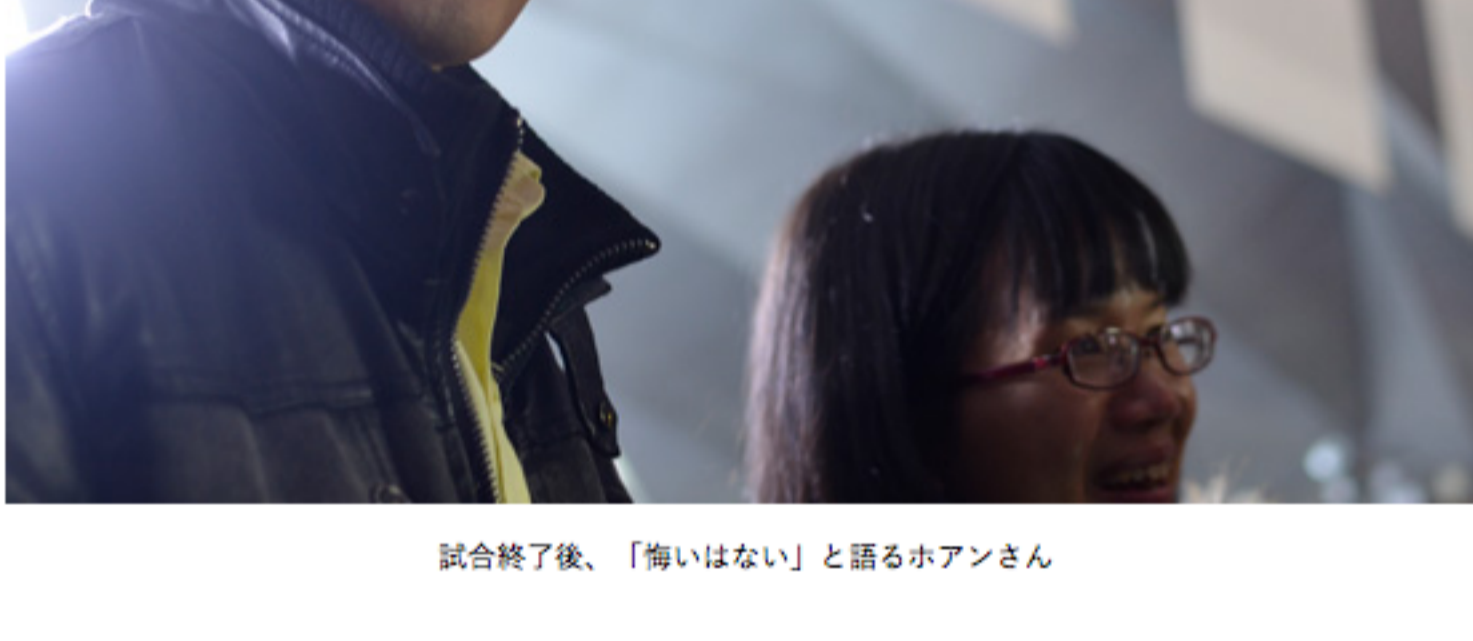


ここまで冷静だったホアンさんだが、投げの失敗では悔しさをあらわにした

ベトナムホーチミン予選決勝での教訓が生んだ「投げ」へのこだわり

コマの「投げ」に始まり、「投げ」に終わったホアンさんの世界コマ大戦。実は、この流れはベトナムでの予選決勝での展開と重なります。優勝すれば、世界への切符をつかめる予選決勝。ホアンさんは、2連勝すれば勝ち抜けとなる初戦を落としてしまいます。絶体絶命のピンチです。ところが相手も、いよいよ世界まであと1勝という状況にナーバスになり、連戦失投で、まさかの自滅。一方、冷静に投げたホアンさんは見事に連勝し、カイタックが大会で世界大会出場を決めたのです。ホアンさんによると、「コマの性能では負けていた」とのこと。しかし、性能で劣っていた部分を見事に投げで補い、勝利につなげました。

対戦における「投げ」と、落ち着いて臨むことの大切さを、身をもって知っているホアンさん。ベトナムホーチミン予選での堂々たる戦いぶりに、世界大会での躍進の予感がしたのでしょうか。驚いたことに、予選決勝で敗れたライバルが、わざわざベトナムから会場に応援に駆けつけていました。「コマは僕のほうが強いだけだなあ」と、この日も自分のコマを会場に持ち込み、デモンストレーションしている様子は無邪気でもあり、2人のすがすがしいライバル関係を象徴しているようでした。2人はベトナムの製造業の今後を担う人材であり、ライバルとして日々切磋琢磨（せつさたくま）しているのです。片や観戦者、片や参戦者としてですが、コマ大戦でともに世界の舞台を目の当たりにしたことは、大きな刺激になったはずです。



世界コマ大戦が終わって、やりきった笑顔を見せる参加者たち

大会参加でつかんだ、勝利以上の大きな収穫

世界コマ大会は、日本勢の優勝、インドネシア代表のSTIの準優勝で幕を閉じました。自身の敗退が決まった後も、目に焼き付けるように、全ての戦いを食い入るよう見つめていたホアンさん。その頭には、さまざまな思いが去来したようです。

「今回の大会参加を通じ、あらためて日本の技術力の高さや、世界コマ大戦へ向けた準備の周到さがよくわかり、とても勉強になりました。特に、優勝した日本のコマの形には驚きました。すごい技術力ですね。そして、準優勝のインドネシアのチームは本当に強かった。やはり勝つためには、重いタイプのコマを作る必要がありますね。刺激になりました。それから、大会に参加して、二つのことが頭に浮かびました。一つはベトナム向けにコマを作りたいという想い。それからもう一つは、世界コマ大戦に勝てるコマ作りを追求したいという想いです。今回は本当にいい経験を積むことができたので、帰国したら待っている社員に全てを伝え、さらに技術に磨きをかけ、次の機会に備えたいと思います」



試合終了後、「悔いはない」と語るホアンさん

ホアンさんが代表を務めるカイタック社は、ベトナム・ピンズン省で精密機械部品、機械工具、検査用ゲージ*などを製造しています。会社の規模は小さいですが、技術力の高さを垣間見せるような今大会での奮闘となりました。旺盛な研究意欲、ひたむきな姿勢、負けず嫌いの一面も持ち合わせながらも、礼儀正しく対戦に挑むホアンさんの姿は印象的でした。

*機械部品を測定するために用いられる計器

予想外に健闘した東南アジアのチームたち

コマ大戦の本戦に出場した東南アジアチームのうち、3チームが初戦を突破。インドネシアのSTIは準優勝を果たすなど、東南アジア勢は予想外の大健闘となりました。

■インドネシアチーム



準優勝したSTI（右）と、2回戦進出を果たしたアストム・スピニング・トップ・チーム（左）

■ベトナムチーム



ベトナムハノイ予選優勝のチーム ホアセンは初戦敗退

■タイチーム

タイバンコク予選2位のチーム、コーラチャは初戦敗退

タイバンコク予選優勝チーム、キャステム サイアムは2回戦進出を果たします！

全長60mm、直径20mmという小さなコマに、日本や世界の製造技術者たちが、国境を越え、技術力ともものづくりへの想いを込めてぶつかり合う世界コマ大戦。製造に関わるものだからこそ理解し合い、たたえ合う姿はさすがしく、晴れやかな気持ちになる1日となりました。

企画名称	全日本製造業 世界コマ大戦2015
日時	2015年2月15日10：00～18：00
会場	横浜港六さん橋国際客船ターミナル 六さん橋ホール
主催	全日本製造業コマ大戦世界大会実行委員会
助成	国際交流基金 アジアセンター
URL	http://www.komataisen.com/

いいね! 128

ツイート 0

G+ 0